

企業訪問 循環型最前線レポート

(株)吉田商会

自動車リサイクル法を追風に 拡大を続けるリサイクル パーツ市場を手中に

(株)吉田商会



代表取締役社長／吉田 廣喜

■所在地／豊橋市下地町字新道29番地 ■創業／昭和56年

■資本金／1,000万円 ■事業内容／自動車のリサイクル部品の生産及び販売、自動車の解体

■取得許可／産業廃棄物収集運搬：豊橋市（廃油・廃プラスチック類・金属くず・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず）

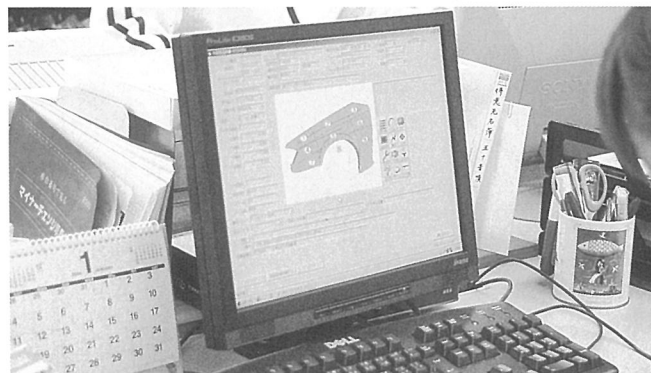
静脈産業化へ大きく踏み出す

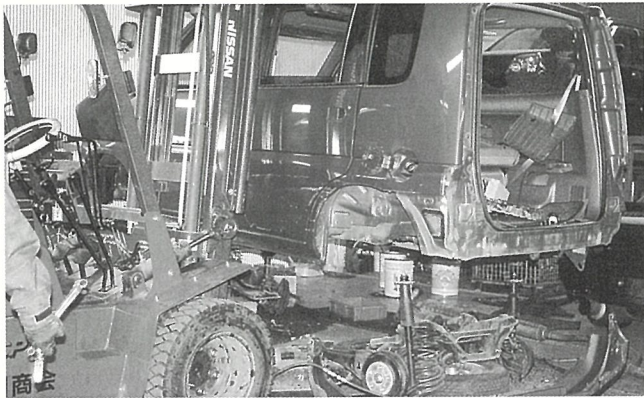
自動車リサイクル法が2005年1月1日より完全施行になり、その業務に参画する事業所は本年7月1日から3ヶ月間に許可申請を行い、登録することが必要になりました。これにより、年間400万台といわれる廃自動車は動脈産業（自動車メーカー）との連携により、引取業者、フロン回収業者、解体業者、破砕業者に分かれ、処理業務が細かく分担され、資源循環に向かって静脈産業化へ大きく一歩踏み出すこととなります。

(株)吉田商会（豊橋市下地町字新道29／吉田廣喜社長）は、産業廃棄物処理業の積替保管業の許可を取得し、廃自動車からリサイクル部品を生産し、NGP（日本グッドパーツ／本部・東京）システムを利用して全国の整備工場、修理工場に対して、補修部品を供給している愛産協会員の中でも注目を集めている会社です。

同社は一昨年10月、自動車リサイクル法の施行を見据えて、豊橋市下地町野箱にあった本社、工場を同市下地町新道に敷地3,816m²を確保して業務の全てを移転。経営基盤の強化とその体制を整えました。

工場の広さは以前の約3倍強で、自動車リサイクル法で定める解体業に必要な屋根、囲い、基礎、排水等の基準を全てクリア。フロンガス、エアバッグ類の適正処理も行っており、部品抜き取り、解体業では全国でもトップクラスの優良企業の評価を受けています。





リユース市場は年間1,060億円。さらに市場拡大

補修部品はネットビジネスを背景に年々増加をたどり、市場規模は現在1,060億円といわれ、その勢いは自動車リサイクル法に伴って再生利用可能な中古部品の供給増加などさらに増す傾向にあります。また、自動車メーカー間では部品の共有化に拍車がかかり、中古部品の需要と流通市場はさらに拡大するといわれています。同社ではすでに許可登録を済ませ、新たな市場を取り込み、年商5億円を目指して静脈産業の一翼を担う、確たる基礎づくりに取り組んでいます。吉田社長は新工場完成に際し「社会の中で自動車の占める環境負荷は大きく、この環境対策とリサイクルを進めることが時代の要請です。弊社もその一翼を担うべく、全力を尽くしています。特に現場対策には力を入れ、フロン回収や廃油処理など徹底した対策を取っています。弊社は解体業を行い、しかも部品を商品として販売するメーカー的要素もありますから、工場や作業の管理体制には万全を期しています。」と企業の姿勢を述べました。静脈産業化が今後どうなるか、その動向が気になる(株)吉田商会です。

1日に15台解体、その日のうちに部品を全国へ発信

同社では、工場規模の拡大に伴い、廃自動車の解体を1日15台程度に増産。廃自動車を検査し、部品ひとつひとつリサイクルできるかどうかチェックし、分解します。ドア、ドアミラー、バンパー、ハンドル、タイヤ、マフラー、エンジン、トランスミッション等取り出されたパーツは数百種類に及びます。分解後、部品1点1点を洗浄し、キズや汚れなど部品の性状を細かく調べて、商品写真と性状を合わせて

ネット上に登録。全国のNGP加盟の整備工場、修理工場に配信します。洗浄された部品は包装され、ストックヤードで管理、注文に応じて梱包、発送を行い、翌日にはユーザーに届く仕組みです。ユーザーからは“検索が早い、商品点数が多い、価格が割安”など好評を得ており、すでにリサイクルパーツ市場は確立している印象を受けました。同社では、商品に品質保証や損保会社と提携し、事故車を10日間無料で保管するサービスを業界初の試みで実施しています。

今後はさらにリサイクルパーツの普及に伴い、様々なサービスや付加価値で話題を呼びそうです。

